

◆参加者アンケートから 久邇先生との思い出 編

大変申し訳ありません、今回のプログラムの編成上、アンケートの掲載は一部の抜粋となってしまいました。

こちらに参加者からのメッセージを用意いたしました。

- N.H 先生がまだ大学4年生だった時、演奏旅行に同行いただいた。学指揮の直前練習をすっぽかして、先生と私たち4年生3人で麻雀をやり、街に出た。なかなか雀荘が見つからなかった時に、一番先頭になって探したのが先生だった。
- M.K その3rdコンサート、畑中先生のアンコール曲は「夕方のおかあさん」。1番がひよこの母さん、2番がめだかの母さん、3番がこねこの母さんで、それぞれソロで「ごはんだよ?」と歌います。その3番を「こねこの兄さん」と言い換え、久邇先生がピアノを弾きながら「ごはんだよー」と客席に呼びかけてくれました。楽しい思い出です。
- A.Y 1996年5月 私はOB合唱団以外にアラウンドという男性合唱団に入り畑中先生、北村先生指揮のもとアメリカツアーに参加しました。その時のピアニストは久邇先生で福永先生亡きあとアカデミーからの参加者は少なかったのですが何かと声をかけていただきとても心強かったことを覚えています。
- 息子が小学校の低学年の時、YAMAHAでピアノを習っているとお話ししたところ「絶対にピアニストにはさせるなよ!」とおっしゃってました??
- T.K 久邇先生のご自宅に、お邪魔して、カメラマンの故駒さんとマージャンをしたことを思い出します。やけに、マージャン牌が、大きいなあ〜と、言いながら、笑っている光景が懐かしいですね??
- I.Y アルトのトップパートなので、先生の演奏なされる姿を目の前にすることが多く。「うーん」という息づかいを聞いた時は、驚いた。こんなにも集中されて演奏されるのだなと思った。時に優しく、時に激しく、その気迫に私は自分の気持ちが引き締まる思いでした。
- H.S いつも、兄貴みたいに話して頂きました。あのはにかんだ笑顔が思い出されます。
- N.M 4年の演奏旅行最終ステージの「The Impossible Dream」。ソロ部分のテンポを出来るだけ引っ張りたいというムリなお願いを快く受けていただきました。終了後、久邇先生がニッコリと微笑んで頂き感無量でした。
- M.E 先輩から、コンクールの時に、半音下がって、合唱が入ったので、その後、半音進行で伴奏されたと、聞いている。
- T.T バックハグのツーショット写真を撮ってもらいました。私のように幹事会に入っていない目立たない団員にもとても気さくに接して下さったひとときでした。
- T.K 3年生の演奏旅行和歌山のステリハが地元のテレビ局でLive中継されました。インタビュアーの「福永先生と久邇先生の関係は二人で一つですか?」との質問に久邇先生が「十分条件であって、必要条件ではありません」とお答えになっていたのが印象深いです。
- H.M 技術系で所沢の先生のお宅にご挨拶に伺いました。近くのレストランでドイツビールをご馳走になりました。初めてのレーベンプロイは本当に美味しくて、「でしょう、これ美味しいのよ」とあの笑顔でニコニコお話ししてくださいました。
- W.Y 50周年からOB会で先生を担当させていただき、体調を壊されたあともアカデミーにご尽力される姿を直接感じながらご一緒させていただきました。練習に呼ばれ、現役支援（主に金銭的）なんとか頑張れともたびたび。目黒での練習に今日は現役と本音の打ち合わせをするので立ち会ってと呼ばれたときは忘れられません。そして、甥っ子が入団して先生の担当を2年することに。富士宮へまた二人で参ります。

コンクールの総評で久邇先生のピアノが絶賛で合唱について一言もなかったのを覚えてます。

ヨーロッパ演奏旅行の際には伴奏だけでなくドイツ語の通訳までお願いして申し訳ございませんでした。そして、先生とのタクシーの社内でのいろいろな会話は楽しく、お前らの期はなんだかんだ一番良かったよなの50周年でのお言葉は先生担当冥利につきます。ありがとうございました。

陽ちゃんから託されたアカデミーを必死で守っていただき、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。演奏会の当日はゆっくりと陽ちゃんと一緒に聴いてください。そうそう、駒さんも一緒ですね!



OBと最後のステージとなった「島よ」2018.6